

日韓船舶会議について

昭和28年6月10日

管財局

1. 日韓船舶会議は終戦以来両国間に懸案となっていた諸問題を討議する日韓会談の一環として、昭和26年10月末から27年4月まで約55回開かれて決裂したが、28年5月再開して会合を重ねている。

2. 前回会談の経過

(1) 韓国側の要求

(a) 終戦当時の朝鮮置籍船の返還

此の要求の根拠は1951年9月1日付朝鮮置籍船返還に関するSCAFIR第2108号である。

(b) 終戦時の朝鮮所在船の返還

此の要求の根拠は朝鮮米軍政府の日本財産接收命令である。

(2) 日本側の要求

(a) 韓国へ貸与中の5隻の国有船舶の返還

(b) 韓国に拿捕抑留された漁船の返還

(g) 会議は法律論としては対立したままて一致点は見出されなかつたが基本条約、国籍問題、漁業問題等に妥協点が発見し得るとの見通しのもとに日本側から27年4月1日若干の船舶(商船20隻、16,012.8^G/Tうち貸与中のもの5隻、10,400.91^G/T及び漁船9隻5,552^G/T)を贈与する旨の提案を行い、先方はこれに対し不満の意を表し質問を保留したまゝ、27年4月日韓会談全体が決裂した。

3. 再開後の経過と解決案

(1) 経過

今回の会談においては韓国は法律上の根拠を問わず、返還船舶の数量の多いことを主張している。

日本側は韓国^{、、、}の海運貿易政策の不当を論じようとして質問を行つてゐるが、先方は議題外であるとして応ぜず会談は暗しように乗り上げた観がある。

(2) 解 決 案

(a) 日韓会談全体をまとめる爲に有効であると判断されるならば前年提案した程度の船舶を贈与する。

(b) 日韓会談全体をまとめる爲に効果なしと判断されるならば贈与を拒否する。

(註) 船舶贈与量を前年の提案以上に増加することには新たな問題がある。

添付書類

別紙ヲ 1 日韓船舶会議公式記録ヲ 24 号

別紙ヲ 2 贈与を提案した在日本水域旧朝鮮置籍船調

別紙ヲ 3 贈与を提案した国有船舶明細書 (現在韓国に貸与中のもの)

別紙
日韓船舶合談公式記録第24号

C O P Y

Record No.24

Summary Record of the Meetings of the Committee on Vessels

1. The 32nd and 33rd meetings of the Committee on Vessels were held respectively on 19th of March and 1st of April at the Japanese Ministry of Foreign Affairs.

2. Conferees: All committees of both Delegations.

3. Proceedings:

Concerning the basis or terms of settlement on the problem of vessels, the views of both sides were different through discussions.

The Japanese side, however, presented its proposal as attached hereto with the viewpoint that the matter should be settled politically rather than legally for the future friendly relations between the Republic of Korea and Japan. To this proposal, the Korean side, reserving the right to answer, made some questions of the paragraphs of the Japanese draft.

The meeting adjourned at 14:30 hours.

Japan /s/ N. Kameyama

Korea /s/ C. K. Chee

Draft for the Agreement to Be Concluded
between Japan and the Republic of Korea
concerning the Settlement of the Vessels Problem

(The Japanese Delegations Proposal)

1. As one of the economic cooperation actions between Korea and Japan, Japan shall donate to the Republic of Korea bottoms corresponding to 5,610 gross tons of commercial vessels and 336 gross tons of fishing vessels now in Japan.

However, the delivery to Korea of the foregoing fishing vessels shall be, in principle, executed simultaneously with the return to Japan of eight vessels as contained in agenda (d) which were recognised by the Korean side to have been retained in Korea.

2. In principle, the standards of the capacities, ages, types of the vessels to be donated in accordance with the preceding paragraph shall be made to correspond to the fifteen commercial vessels and nine fishing vessels the fact of registration of which was confirmed in connection with agenda (A). However, according to the condition of capacity, age and type, the aforesaid tonnage and number of vessels may be increased or decreased.

3. The five vessels coming under agenda (C) which the Japanese Government loaned to Korea shall also be donated simultaneously, notwithstanding Japan's claim to them.

4. The execution of the aforesaid donation shall be made at the earliest date after the coming into force of the Peace Treaty with Japan, in compliance with the Japanese domestic measures.

5. The aforesaid donation shall not be made pursuant to SCAPIN 2168 dated 11 September 1951, and Ordinance No. 33 of USAMGIK dated 6 December 1945, and shall have no influence upon the settlement of the claims and other pending problems now under

negotiation between the both countries.

6. By the aforesaid measures, the problem of title to the vessels between both Korea and Japan shall be considered to have been wholly and ultimately settled, excepting Japan's demand for some fishing vessels.

船名	船型	G / T	旧所有者	旧船籍港	現所有者	現船籍港	現状及び経緯	評価額
1 会寧丸 (現若潮丸) (W018)	貨客 (現救助船)	931.40		仁川		東京		52,158,000
2 才11良友丸 (X073)	油槽	275.97				下関		22,740,000
3 才20良友丸 (木)		146.30						17,790,000
4 才32良友丸 (X074)		532.27				東京		73,666,000
5 才5東勢丸 (X065)		372.27				横浜		41,099,000
6 順川丸 (木)		155.91				東京		25,070,328

7	博川丸 (F122)	(木)	158.13				24,541.776
8	太平丸 (F122)	貨客	196.86		釜山	下関	16,851.000
9	大西丸 (F129)	"	232.90		"	徳島	22,358.000
10	金城丸 (K157)	"	345.07		"	下関	38,510.000
11	龍頭山丸 (R025)	貨	539.46		"	大阪	82,646.000
12	京仁丸 (K133)	"	435.44		仁川	大阪	53,124.000
13	京仁丸 (K134)	"	434.56		"	"	53,016.000
14	京仁丸 (K142)	貨	434.43		"	"	53,000.000

15	为5京仁丸 (K038)	貨	419.62		仁 川		大 阪		62.104.000
	商船 計		5.610.59						338.674.184
16	为1大成丸	漁船(木)	56.09		釜 山		-		
17	为2大成丸	"	56.09		"		-		
18	为11あさひ丸	"	47.00		群 山		-		
19	为12あさひ丸	"	47.00		"		-		
20	为3千鳥丸	鮮漁運搬船	18.69		法 漁 津		山 口 県		
21	为16千鳥丸	"	17.00		"		"		
22	为56隼 丸	"	15.53		"		"		
23	为3浜吉丸	刺網漁船(木)	16.38		海 南		長 崎 県		
24	北 洋 丸	鋼 船	72.28		玄 山		神 奈 川 県		
	漁 船 計		355.2						

別紙

贈与を提案した

国有船舶明細書(現在韓国に貸与中あり)

船名	船級	総屯数	重量屯数	航行区域	用途	製造年月	船質	長さ	幅	深さ	汽機	馬力
金泉丸	一級	三〇八・一五	四八〇・二九二	近海	貨物船	一九三七二	鋼	九七米〇八	一四・〇〇	七・五〇	三聯成一	二〇〇〇
威鏡丸	一級	二九三・三八四	五〇九・五七四	近海	貨物船	一九一八一	鋼	九二米九六	一三・三四	八・三一	三聯成一	一七〇〇
桜島丸	二級	二二八・三六	二〇四・九九〇	近海	貨客船	一九六八八	鋼	六八米五五	九・六〇	五・七九	三聯成一	六三〇
天光丸	一級	二二二・五七	四〇六・九九〇	近海	貨物船	一九四五四	鋼	八五米八四	一三・四〇	七・二〇	三聯成一	一〇三九
安城丸	二級	八八・三九九	一五七・八六六	近海	貨物船	一九四四七	鋼	六〇米五七	七・五〇	五・四七	ディーゼル	四三〇

極秘

第二次日韓会談における財産及び請求権分科会の問題と
第一次会談における問題点との比較

昭和二八・五・一
理財外債

本会談において韓国側が問題として
最初に提出した諸項目（昭二八・五・一現在）

昨年々会談における韓国側が提出した
請求権協定要綱の項目

（算用数字は要求順位を示す）

- 一 古書籍
- 二 美術・工芸品
- 三 地図原板

要綱第一項

- 一 古書籍 （内訳 省略）
- 二 美術・工芸品 （全 石）
- 三 地図原板 （全 石）

要綱第二項内訳

- 一 朝鮮総督府貯金管理局対中央（日本大蔵省預金部）勘定
- 一 簡易生命保険積立金預金部預金
- 一 金 余裕金預金部預金
- 一 郵便年金積立金預金部預金
- 一 金 余裕金預金部預金
- 一 大蔵省預金部登録公債

要綱第四項該当会社名義

（一）別表（A）

- 一 朝鮮銀行
- 一 朝鮮殖産銀行
- 一 朝鮮信託銀行
- 一 朝鮮金融組合聯合会
- 一 朝鮮総督府鉄道局共済組合
- 一 朝鮮奨学会維持財団

（二）別表（B）省略

要綱第五項 内訳

- 一 日本国債、日本地方債、日本政府保証社債、日本政府機関社債
- 一 日本銀行券、日本政府紙幣
- 一 朝鮮銀行、日本銀行に対する貸付金及金貨金

- 一 朝鮮総督府鉄道共済組合の建物等
- 一 朝鮮奨学会維持財団の建物等
- 一 有価証券（特に朝鮮銀行、朝鮮殖産銀行、朝鮮信託銀行、日本銀行、日本地方債、日本政府保証社債、日本政府機関社債、日本政府紙幣、日本銀行券、日本銀行に対する貸付金及金貨金）
- 一 日本銀行券、日本銀行に対する貸付金及金貨金

2/25/50
昭二八・五・一

我傷痍者我死

全一、太平洋戦争中ノ韓人戦没者平慰基金設立
運動は是非をわきまなく不明を計り善後
措置

太尊注 嶺南中興 人傷病者 楚籍并原 人 撰讀金

二、太平洋戦争中、韓人被雇用者未收金

一 太平時戰爭中の韓人被虜用者、楚藉耕
傷病及び行方不明と云ふ者、打討すべし、
死亡

指置

一 在日韓國人の本店帰還時預託金

對寸る預け金

一、太平年戰爭中の韓人戦歿者に慰金及び遺族慰藉料

一、太平洋戰爭中、人傷病者慰籍料及心
援護金

太平洋戦争中の韓人被徴用者未收金

一、日本政府及び朝鮮總督府の韓人公務員恩給

一、在日韓國人ヲ本國帰還時預託金

生
命
系
於
心
之
二
寸
方
寸
之
間
二
生
皆
全
又

在鑄金融機関の対甘爲香居（集中史育）

未清算分

極秘

韓日間財産および請求権協定要綱韓国側提案

(一九五二年二月二十一日提出)

一 韓国より運び来りたる古書籍、美術品、骨董品、その他国宝、地圖、景版および地金と地銀を返還すること

二 一九四五一年八月九日現在日本政府が朝鮮總督府負債勘定を決済すること

三 一九四五一年八月九日以後韓国より付替又は送金したる金員を返還すること

四 一九四五一年八月九日現在韓国に本店あるいは主事務所ありたる法人の日本にある財産を返還すること

五 韓国々民(法人を含む)の日本国あるいは日本国民(法人を含む)に対する公債、日本銀行券、被徴用韓人未收金およびその他請求権を決済すること

六 韓国々民(法人を含む)が有する日本法人の株式又はその他証券を法的に認定すること

七 前記諸財産または請求権より生じたるまたは生ずべき諸果実を返還すること

八 前記返還および決済は協定成立後即時開始され遅くとも六個月以内に終了すること

極秘

省 蔵 大

第一回請求権關係部会における張基榮代表の挨拶（訳文）

アジア第二課
二八、五、一一

韓日会談財産権分科委員会開会における

韓国側代表の挨拶の言葉

前回の会談が中断されるようになった直接原因たりし財産及び請求権問題を処理するため、本日よりこのように貴国側代表と実務の会合をまたもつようになったことを、韓日国交調整は勿論のこと、進んで韓国間の経済提携促進のために多幸なことを考えると同時に、將來この分科実務會議をして有終の實を挙げしめることにつき責任の一端を感じます。

本代表は財産及び請求権の主張に関する原則と法理論の段階は終つたとの見解をもっているものでありまして、本来財産及び請求権問題は、昨年二月二十日第一次分科委員会で韓国側林松本代表が提言したように、一見非常に複雑なもののごとくであるが、

大 蔵 省

実は至極分明簡單な事務處理にすぎないものであります。かかる私の見解は、今後本実務會議を重ねるに従い、本代表が提示する議題内容と方法によつて実証されるものと信ずるところであります。

要するに、不名譽なりし過去の兩地域間の財政、經濟關係を清算する問題は、最小限過去の記憶を新たにさせる点でも、お互に決して愉快なことではありません。しかし、かかる不快な過去を早く忘れてしまい、まさしく衡平の精神による韓日間の國交の調和と、特に兩國の將來の利益のための正常なる經濟關係の協調發展のためには、われわれはこの問題の迅速、妥當なる處理にあつて、暫く忍耐と努力と反省を用意しなければならぬのであります。

数日前他の分科実務會議で貴國側代表の一人が、昨年の會議のときに比して貴國の事案の変更があること、再言すれば、昨年

大 蔵 省

四月二十八日以後の貴國の新しい立場を含蓄をもつて強調されたのを承りましたが、本代表の意見としては、そのような事態の変更があればこそ、財産及び請求権問題のこともものは、過去を清算し、新しい事態の発展に即応するために、このような所謂靜的な過去の問題の終結を迅速果敢に決定し、お互の國際間の信頼を向上させ、民主友邦の期待にそむくことのないようにすべきものと考えるところでありまして、今後本會議の進行において、韓國の主張は常に率直簡明に、事務的に表示いたしたく、予め貴方の瞭解を求めておきたいと思ふ所以であります。

最後に、双方で同じ討論による昨年の失敗を反復しないために、所謂在韓財産の帰属処理に関する米國務省責任当局の公信の事を本日の挨拶の言葉とともに提示いたしますから、査覈あることを願います。以上本代表の期待と希望を開陳して挨拶にかえるものであります。

④

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

April 29, 1952

Excellency:

I have the honor to acknowledge the receipt of your note of March 25, 1952, in which you request an official United States interpretation of the effect of Article 4 of the Treaty with Japan, and the relevant directives of the United States Military Government with respect to the property of Japan and Japanese nationals in Korea.

The United States is of the opinion that by virtue of Article 4 (b) of the Treaty of Peace with Japan and the relevant directives and acts of the United States Military Government in Korea all right, title and interest of Japan and of Japanese nationals in property within the jurisdiction of the Republic of Korea have been divested. Accordingly, in the opinion of the United States, valid claim to such assets or to an interest therein cannot be asserted by Japan. The disposition of such assets, which Japan has recognized as valid in Article 4 (b) of the Treaty, is relevant, however, in the opinion of the United States, in the consideration of the arrangements contemplated by Article 4 (a) of the Treaty.

Accept, Excellency, the renewed assurance of my highest consideration.

For the Secretary of State

His Excellency

Dr. You Chan Yang

Ambassador of Korea,

Washington, D.C.

694.95/3-2552

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

U.S. TO BLAME FOR JAP-KOREA FIGHT OVER LOST PROPERTY

(Source: Washington News, May 19, 1952.)

By JIM G. LUCAS
Scripps-Howard Staff Writer

The squabble between Japan and Korea over Japanese property rights is largely Uncle Sam's fault, says Rep. William B. Bray (R., Ind.).

Japan refuses to sign a peace treaty unless her Korean property rights are recognized. She insists on indemnity for damages "arising out of the Korean incident." The Koreans say this is blackmail. They contend that to recognize such claims is tantamount to "turning Korea back to Japan."

On May 8, the State Department told Japan she has no property rights in Korea. But Japan no longer is willing to admit Uncle Sam is always right. Foreign Minister Katsuo Okazaki says Japan will push her claims.

Mr. Bray, a Reserve Army colonel who was deputy property custodian under Lieut. Gen. John R. Hodge during the Korean Occupation, was intimately connected with the start of the dispute. He says it could easily have been avoided. Now, he says, it's like trying to "unscramble an egg." Return of Japanese property is impossible. Korea can't pay. If anyone pays, it would be the U.S., and Congress won't allow that.

NO PLANNING

Nevertheless, Mr. Bray says, it's a bigger issue in the Orient than most Americans realize. The Japanese feel mistreated. International law is on their side, Mr. Bray contends. This could easily drive a wedge between this country and the new Japan. And we need the Japanese too much for that.

Our trouble, Mr. Bray says, is that we sent troops to occupy Korea with no advance planning. Gen. Hodge had no instructions. Faced with rioting, he temporarily reinstated Japanese authorities to keep order. That offended Koreans.

Later, the Japanese were disarmed and ordered repatriated. Many had lived all their lives in Korea. Mr. Bray says, however, there was no alternative in view of the hostile attitude of all Koreans toward their former masters.

END

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

Because shipping was scarce, each Japanese was told to take only one small bundle with him. He could pack two more, to be left behind for shipment when space was available. These consisted principally of family heirlooms, Mr. Bray said.

These pitiful bundles -- rag-tag remnants of former wealth -- never were shipped, he recalls. We never found the ships. He isn't sure what was done with them. They just disappeared.

MATTER OF LAW

After repatriation began, Mr. Bray says, Gen. Hodge issued several orders. The word "confiscate" did not appear in the first few. But later they were rewritten at the direction of someone in Washington. Japanese property -- government and privately owned -- was seized by the Occupation.

Mr. Bray says he was "thunderstruck." He said he had read international law on the subject. That was part of his job as property custodian. The law provides, he said, for seizure of defeated enemy government's property. But there is no law for seizing property of individual citizens of defeated enemy governments.

"I don't criticize Gen. Hodge," he says. "If I could have gotten to him, I would have pointed this out. But I was only a major."

Mr. Bray says trouble could have been avoided if Gen. Hodge had ordered Japanese authorities to appropriate -- and pay for -- private property in Korea. The Japanese government was anxious to please in those days. Then, he said, we could have confiscated that property from the government, and no question could be raised now.

But we didn't. We seized private property -- altho we had no such right under international law, he insists.

- 0 -

NO FLANNING

(Source: Pittsburgh Press, Editorial, May 20, 1952)

REP. WILLIAM G. BRAY says the dispute between Japan and Korea over former Japanese property on that war-torn peninsula

is this

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

is this country's fault. It could have been avoided if we'd done any advance planning for the Korean occupation before the end of World War II, says the Indiana Republican.

Mr. Bray's opinion can't be shrugged off. A reserve Air colonel, he was in charge of enemy property during the Korean occupation. He saw this thing coming seven years ago.

The growing bitterness between Japan and Korea -- both allies of the United States -- could split the free world in the Far East at a time when it badly needs unity.

Unfortunately, Mr. Bray's indictment still holds good. It applies with equal force to the prisoner-of-war fiasco on home: No advance planning.

It applied to the clumsy way we handled the repatriation of POWs from the beginning: Too little thought given a serious problem. It has applied throughout the Korean War.

If we are to exercise leadership -- and we have no choice -- we should know what we are doing. When will we learn that?

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

10
4
号

四月二十四日着電

同時外務大臣宛中川事務所長宛電報

比島沈船引揚げ細目現地打合せに関する件（その六）

便宜供与等に関しては数次の会議と実地の調査見聞により全般的
且つ具体的な内容折衝の段階に入つた。先方は設備を含め予想外
に積極的協力の態度を示しており、目下のところ主なる懸案事項
は(1)「キヤビテ」及び「セブ」の陸上基地宿舎、(2)携帯酸素工場
設置の要否、(3)液体燃料の立替供給、(4)その他の需品の立替供給
形式等である。

スクラップ中継の件は先方に処理能力なきためわが方において
引受ける外なしと考えられる。

二十三日技術者会議に於て一船別精密調査資料に基き説明する予
定である。先方は、全部解体すべきであるとのわが方の見解に異
をもち未だこれを承認しておらず、沈船の内部にあるものは浮揚の
上再生使用しうるとの希望を棄てていない。従つて浮揚を一切拒
否する強い態度を採ることは、わが方の誠意を疑わしめる結果と

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

なることも考えられるので、わが方としては経済的にみて再生使用不能を理由として先方を説得する方針である。

なお一般別給密調査資料英訳については、本省にその送付方を要請した旨先方に伝はつており、その内容形式等に関しては御研究願いたきも、先方を説得するためには豆写真とスケッチを含む資料の提出は必要のものと考えられる。

液体燃料の立替供給については既に御知らせした通り、先方は外国石油会社の寄港を利用し、現地で燃料を取得し、その対価を日本において支払うことを要求している。わが方はこれに対し外貨負担を伴うものであるから是非とも立替供給によるべきことを要請した。先方としては液体燃料は輸入品にして外貨予算に余裕なく且つ國民を納得せしめることは困難なりとの理由により強い難色を示している。ついてはこの点予め検討置き願いたい。

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

Office of Comptroller

22 April 1952

MEMORANDUM FOR: JAPANESE GOVERNMENT
Ministry of Finance

SUBJECT: Settlement of Account of SCAP Funding Officer

1. Reference is made to Memorandum of Japanese Government, dated 10 April 1952, subject as above.
2. The Comptroller, General Headquarters, Far East Command, acknowledges the possession of 4 billion yen, which constitutes the revolving fund utilized for sale to United States Armed Forces personnel, of yen for United States Dollars. This fund will be returned, intact, to the Japanese Government as soon as arrangements regarding the furnishing of yen for United States Dollars to cover necessary requirements of the United States in Japan can be made, but in no event, later than 90 days beyond the coming into force of the Peace Treaty.

LAURIN L. WILLIAMS
Brigadier General, General Staff with Troops
Comptroller

4

昭和 2 7 年 度 国 際 収 支 見 込

(単 位 百 万 弗)

(28.5.23. 為 . 資)

7	ド ル	ボ ン ド	オ ー プ ン	合 計
(1) 受 取	1,572	532	286	2,190
輸 出	421	471	265	1,157
貿 易 外	915	60	21	832
1 一 般 貿 易 外	76	31	8	116
2 駐 留 軍 関 係	783	15	0	798
3 オ ー プ ン 決 済	37	1	13	51
4 ス ワ ヅ プ	54	13	0	67
(2) 支 払	1,195	666	338	2,199
輸 入	997	642	294	1,887
貿 易 外	198	70	44	312
1 一 般 貿 易 外	71	31	6	108
2 I M F 出 資	50	0	0	50
3 外 債 償 還	10	26	0	36
4 オ ー プ ン 決 済	13	0	38	51
5 ス ワ ヅ プ	54	13	0	67
(3) 受 払 超 (1)-(2)	177	-134	-52	-9
(4) 外 貨 資 金 残 高 期 初	643	279	137	1,059
期 末	820	129	85	1,034

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

(註)

- 1 ドル資金残高中には日銀持高 50 百万ドル、外貨証券 25 百万ドル及び為銀持高を含む。
- 2 ボンド資金残高中には外貨証券 10.9 百万ボンド (30.7 百万ドル) 及び為銀持高を含む。
- 3 3 月末ボンド残高はロンドン勘定によつた。27 年 3 月末本勘定残高は 252、9 月末は 314 であつた。

保有外貨資金等残高推移表

	ドル勘定(千弗)				ボンド勘定(千磅)			オープン勘定(千弗)	計(千弗)
	M O F 外貨資金	外貨証券	その他	計	M O F 外貨資金	外貨証券	計		
昭和 27 年 3 月	642,602			642,602	99,668		(279,079) 99,668	137,470	1,059,142
4	659,898			659,898	109,784		109,784	138,563	1,105,856
5	700,898			700,898	120,644		120,644	139,188	1,177,840
6	671,406			671,406	126,889		126,889	134,645	1,161,340
7	662,904			662,904	106,081	20,043	126,124	132,888	1,148,959
8	676,259			676,259	100,905	20,082	120,987	126,654	1,141,676
9	651,371	19,998	67,294	718,663	100,177	20,125	120,302	126,768	1,182,276
10	640,910	19,898	67,789	728,597	93,813	20,166	113,979	119,537	1,167,275
11	650,518	19,916	68,293	738,727	83,763	20,207	103,970	128,370	1,158,213
12	648,828	34,839	87,864	771,531	76,428	12,564	88,992	121,714	1,142,423
昭和 28 年 1 月	668,913	24,840	80,248	774,001	67,274	10,954	78,228	106,990	1,100,029
2	711,892	24,840	74,117	810,849	47,908	10,979	58,887	92,488	1,068,220
3 (推定)	724,000	24,840	71,000	819,840	35,000 11,600	10,979	(128,741) 45,979	85,000	1,033,581
年度間増減	+81,398	+24,840	+71,000	+177,238	-64,664	+10,979	(-150,329) - 53,689	-52,470	- 25,561

月 別 輸 出 入 表

(単位 千弗)

		輸 出				輸 入			
		ド ル	ポ ン ド	オ ー プ ン	計	ド ル	ポ ン ド	オ ー プ ン	計
27年	1月	50,680	73,034	37,996	141,710	72,311	46,646	17,147	136,104
	2月	23,043	62,444	30,451	115,938	69,399	50,093	18,197	135,689
	3月	50,864	69,075	30,696	130,635	75,525	41,275	15,986	132,786
	4月	52,011	61,840	24,148	117,999	75,866	40,230	20,401	136,497
	5月	55,652	64,213	21,385	119,250	83,780	53,854	17,594	135,232
	6月	51,251	54,253	21,203	106,709	95,510	34,357	16,950	146,817
	7月	28,925	44,747	19,012	92,684	77,627	59,463	20,256	137,326
	8月	33,684	39,989	17,227	90,900	65,623	44,242	17,874	127,739
	9月	33,998	34,442	19,385	87,825	71,936	46,540	18,931	137,407
	10月	41,558	34,350	25,467	101,175	91,843	45,634	25,149	162,626
	11月	59,496	29,644	25,107	94,247	95,519	56,135	19,476	171,130
	12月	56,726	28,487	24,902	90,115	82,045	54,016	22,943	159,004
28年	1月	41,210	28,833	20,743	90,786	86,853	52,926	39,113	178,894
	2月	43,751	22,700	20,134	86,585	57,060	53,622	24,928	140,610
	3月	46,764	26,898	22,003	95,667	67,277	47,319	35,158	149,754

28年3月は推定数字

昭和 27 年度 外国為替收支見込表

(単位千円)

(28 . 3 . 11)
為 総

項 目	ド ル	ボ ン ド	オ ー プ ン	合 計
受 取 勘 定				
輸 出	442,824	470,597	260,719	1,173,940
貿 易 外	879,894	48,990	8,783	937,667
計	1,322,718	519,587	269,502	2,111,607
支 払 関 係				
輸 入	950,940	555,342	278,758	1,785,040
貿 易 外	163,241	54,351	7,655	225,245
計	1,114,181	607,693	286,411	2,008,285
1 差 引 外 貨 收 支	(+) 208,537	(-) 88,306	(-) 16,909	(+) 103,322
昭和27年3月末外貨資金	842,602	270,070	137,470	1,059,142
昭和28年3月末外貨資金 (推 定)	819,840	252,154 128,741	85,000	1,032,226 1,033,581
2 差 引 増 減 (推定)				(+) 1,355 (+) 25,581
3 差引過不足(推定)(1-2)				(+) 101,967 (+) 128,888

MINISTRY OF FINANCE
THE JAPANESE GOVERNMENT

Unit: £1,000

	Sterling Area		Other Area	
	Export	Import	Export	Import
1952				
Jan.	25,797	15,575	387	1,084
Feb.	22,118	17,034	183	857
Mar.	24,345	13,721	324	1,020
Apr.	21,665	13,446	420	922
May	22,570	10,402	363	1,690
Jun.	19,084	11,007	292	1,263
Sub-Total	135,579	81,185	1,870	6,836
Jul.	15,284	12,983	698	1,112
Aug.	14,153	14,137	128	1,664
Sep.	12,276	14,513	25	2,108
Oct.	12,225	14,139	43	2,159
Nov.	9,994	17,649	594	2,399
Dec.	10,123	16,890	52	2,401
Sub Total	74,054	90,311	1,540	11,843
<u>Grand Total</u>	<u>209,633</u>	<u>171,496</u>	<u>3,409</u>	<u>18,679</u>